

# 登山月報

2010年新春懇談会	1
2009年国際山岳連盟医療委員会報告	3
積雪期レスキュー講習会(東部地区)報告	4
第6回アイスクライミングジャパンカップ	5
第23回海外登山女性懇談会報告	7
新連載 Mountain World 第15回	8
JMA、寄贈図書	9
50周年行事	12

## 2010年新春懇談会を開催 新たな50年 より良い登山界を目指して



スバンテイク隊へ花束贈呈

恒例の新春懇談会が1月16日(土曜日)にアルカディア市ヶ谷富士の間にて文部科学省坂元讓次生涯スポーツ課長、国立登山研修所長登健所長、日本山岳会尾上昇会長、日本勤労者山岳連盟斉藤義孝理事長他、多数の来賓、招待者を迎えて、137名の出席のもと盛大に開催された。

はじめに神崎忠男副会長の開会の詞に続き田中文男会長より「新年あけましておめでとうございます。いつも日本山岳協会にご支援を賜りましてありがとうございます。新年早々のお忙しい時期に大勢の皆様方にご参集いただき、感謝の気持ちで一杯です。またたくさんのご来賓、登山界のお歴々にご出席いただきましたことをお礼申し上げます。私ども日本山岳協会もおかげさまで今年は創立50周年を迎えます。この50周年を期しまして私どもさまざまな形で新しい時代を作りたい。そのためには登山界の皆様力をぜひお借りしたい。ご承知のように公益法人法の改正がございましてどういう形をめざすかいろいろと検討して参りました。公益法人としてそして登山界に必要とされる組織としてさらにリーダーを目指して今後日本山岳協会に動いてもらいた

い。来年の1月15日、この新春懇談会の時に創立50周年の記念式典を行いたい。そのためにこの1年間さまざまな事業を計画しております。少なくとも私たちが50年間何をしてきたか、それよりもこれから先何を目指そうか、そういう指針をはっきりお示しして力を合わせて登山界の発展につなげていけたらと考えております。また私案ですが、日本山岳協会の山岳大賞のようなものを作りたい。皆様方の力を結集して良い登山界を作りたい。最初の1歩を踏み出さない限り山頂には絶対着けない。これからもご指導とご協力をお願いするとともに感謝申し上げます。」との挨拶があった。

引き続き来賓の文部科学省坂元讓次生涯スポーツ課長が「平成13年から3年間登山研修所の所長を務め、山に親しむようになりました。山に行くと本当に登山が国民の皆さんの生活に日常的に入っている。他面で昨年は遭難事故が一番多かった。また、年末年始も事故がございました。安全な登山を連携して進めていきたい。50周年ということで今までも中心となって活躍して頂きましたが、これか



文科省坂元課長の挨拶

らも登山界の中心的な組織としてやって頂くという  
 こととさせていただきます。登山研修所も昨年の4月に国の  
 組織から離れまして独立行政法人の一機関として移  
 管を致しました。登山界のご協力のもとに、中中年  
 安全登山講習会、救助技術講習会については日本山  
 岳協会に移管をして頂いております。安全登山のため  
 に登山研修所にも今後ともご支援をお願い致します。  
 安全登山、登山文化の発展のために皆様方の役割  
 は益々大きくなります。皆様方のご活躍とご健勝を  
 祈念してご挨拶と致します。」と挨拶され、社団  
 法人日本山岳会の尾上昇会長が「本日も午前中に日  
 本山岳会から田中会長、尾形常務理事をお願いを致  
 しましたが、昨年の秋から山の日プロジェクトを立  
 ち上げました。一緒にやりましょうというお願いで  
 あります。事務局段階ではご了承を得ているという  
 ことで皆様にもお願いしたいと思っております。今  
 まで山登りをする私たちという小さなとらえ方をし  
 ておったのですが、今年名古屋でCOP10生物多様性条  
 約締結国会議が開かれますけれども自然と言うもの  
 は海も山もすべて一体化したものであるという発想  
 から孫子の代まで美しい自然をヘリテージしていこ  
 う。遺産として残していくということが私たちの任  
 務ではないかという発想から山の日というものを考  
 えて、国民で取組もうということとさせていただきます。  
 ご協力をよろしくお願い致します。」と挨拶された。

続いて日本勤労者山岳連盟の齊藤義孝理事長が  
 「新年早々私どもの会員が穂高で事故を起こしまし  
 てご心配をかけ申し訳ありません。私ども勤労者山  
 岳連盟も50周年を迎えます。皆さん方のご支援の  
 おかげとっております。50周年記念行事をいろ  
 いろ用意しております。なかには日本山岳協会との  
 共同行事も用意させて頂いております。登山界は厳  
 しいですが2010年を節目に登山団体も力を合わせ  
 て協力して登山文化の継承、若者の育成をしたい。



元気な顧問による恒例の乾杯

登山界の協力、共同のスタートの年としたい。」と  
 挨拶された。来賓のご紹介の後、日本山岳協会や各  
 岳連の活動に永年ご尽力、貢献された方々に対し功  
 労表彰が授与された。受賞者は出堀宏明（岩手県山  
 岳協会）、佐藤清衛（栃木県山岳連盟）、小暮茂樹（群  
 馬県山岳連盟）、平沼伸一（埼玉県山岳連盟）、林雅  
 樹（京都府山岳連盟）、青木正樹（愛媛県山岳連盟）、  
 首藤宏史（大分県山岳連盟）故若月東兒（千葉県山  
 岳連盟）、故田山勝（埼玉県山岳連盟）の各氏でした。

続いて第59回日本スポーツ賞（読売新聞）を受  
 賞したGIRI-GIRIBOYSスパンティック登山隊の一村  
 文隆氏に野口啓代さんから花束の贈呈があった。次  
 に平成21年度の海外登山奨励金の授与式が行われ  
 富士山八合目太子館アラスカ登山隊2010天野和明  
 氏、松本CMCランタン・リルン登山隊2010馬目弘  
 仁氏、GIRI-GIRIBOYSラトックI峰登山隊2010の一  
 村文隆氏に本木総子副会長より奨励金の目録が授与  
 され、参加者から大きな拍手を受けた。続いて北山  
 真常務理事から招待選手の平山ユージ、安間佐千、  
 小林由佳、野口啓代選手が紹介され、「ワールドカ  
 ュップにたくさん出場し表彰台を狙っていきたい」と本  
 年度の目標や抱負を述べて頂いた。

乾杯は齋藤一男、坂口三郎、山本久子、瀧島清、



功労表彰を受賞された皆さん



日本を代表する選手たち

国澤鎮雄、城隆嗣、坂場昭雄顧問によって行われた。今回は50周年の前祝ということもあり来賓も多く、各岳連からも多数の参加者があり、楽しい話題や課題への熱い思いが語られ、楽しく有意義な一時で

あった。なごやかな懇談のあと、最後に、(社)日本山岳ガイド協会の磯野剛太専務理事の中締めのもと、内藤順造副会長から閉会の挨拶があり、予定通り午後3時に無事お開きになった。

## 2009年 国際山岳連盟医療委員会報告

11月16日ネパールの首都カトマンドウで国際山岳連盟医療委員会 (UIAA MedCom Meeting) が開かれ、日山協から医科学委員会の堀井と上小牧が出席した。上小牧はわが国における国際山岳認定医制度立ち上げの件で日本登山医学会から派遣という形で急遽出席することとなったものである。

会議はホテルマナスルの会議室で10時から17時まで行われ、ブッダ・バスニアット委員長、ダビッド・ヒルブランド副委員長をはじめ、13カ国からの委員およびゲストとしてUIAA本部のニコ・ジャン (歯科医師) が出席した。

はじめに委員長からUIAA総会 (ポルトガル) の報告があり、WADAは酸素を禁止物質としないこと、アセタゾラミド (ダイアモックス) を5つの隠蔽剤のひとつに位置づけたことの確認があり、さらにマイク・モテイマー会長はドイツとオーストリアがUIAAを脱退したことはUIAAに対するよい意味での警告となるであろうとみていると述べられた。笹生氏の「登山月報」488号の総会報告にも述べられているが、ペツル基金からの寄付にも触れた。

続いて各委員から、それぞれの国における活動などが報告されたが、登山者の教育・啓発、高所医学研究への取り組み、国際山岳認定医制度 (DIPLOMA) への取り組み、UIAA MedCom OFFICIAL STANDARD (UIAAコンセンサスペーパーと同義) について自国語への翻訳の進捗状況などが主なものであった。

堀井はオフィシャルスタンダードを日本登山医学会 (JSMM) のメンバーで翻訳してJSMMとJMAのwebに掲載することになったことを述べ、また今夏のトムラウシ岳低温症遭難事例をレポートした。(上小牧は翌17日のmeetingにおいて「日本における国際山岳認定医への取り組み」と題して発表をおこなった。)

### UIAAコンセンサスペーパーについて

現在15編のコンセンサスペーパーがある。各国語に翻訳されたコンセンサスペーパーはそれぞれの国でwebに掲載すると同時にUIAAのwebにも掲載す



医療委員会の様子

ることとなった。(日本では13編中11編が翻訳されており、そのタイトルは既に登山月報で紹介済みであるが、第14は 高所における避妊、2009、第15は神経学的疾患を持つ人の高所旅行、2009である。)

次に新たなコンセンサスペーパーのテーマについて検討し担当者を定めることとなった。

そのテーマとは

- 登山におけるドーピング・高所における眼の問題・高所における歯の問題
  - 非白人と高所・遠征やトレッキングのガイドとの契約について・有毒動物
  - 目的の山へのアプローチで危険を回避するには
  - 人工的低酸素環境施設の基準について
- などが挙げられ、独のトーマス・キュッペル、スイスのウルス・ヘフティ、英のダビッド・ヒルブ

## ネパールに行くなら、**風の旅行社**にお任せ下さい。

元々はネパールから始まった風の旅行社。ネパールに支店も構えています。専門知識と経験で、皆様をがっちりサポートいたします。

**株式会社 風の旅行社**  
観光庁長官登録旅行業第1382号 日本旅行業協会 (JATA) 正会員  
総合旅行業務取扱管理者 原 / 小宮山

〒165-0026 東京都中野区新井2-30-4 1F, 0ビル 6F  
**TEL.0120-987-553** FAX.03-3228-5174  
〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2-5-25 ハービスPLAZA3F  
**TEL.0120-987-803** FAX.06-6343-7518

URL <http://www.kaze-travel.co.jp/> e-mail [info@kaze-travel.co.jp](mailto:info@kaze-travel.co.jp)



ラント、スペインのシルビア・フェランデイスらが担当の委員として、さらに進め方を決める役割を担う委員も何人か決まった。「非白人と高所」については堀井をはじめ日本人グループが担当することとなった。

### その他

- ・ 昨年から問題となっているアコンカグア登山規制についてはUIAAおよび英国山岳会からスペイン語、英語で文書を送ったが、一年を経過した今日、アルゼンチン当局からはなしのつぶてである。
- ・ キリマンジャロ登山は急速に高度を上げる登山となるため、最近2年前から長いルートで時間をかけて登る人が増えている。
- ・ DIPLOMA (いわゆる 国際山岳認定医) ICAR, ISMM, UIAA の Medical Commission が設立し推進している登山医学認定医の資格は基礎コース、

トレッキング/遠征のコース、登山の救急医学のための専門コースの三つを受講して取得する仕組みである(わが国では日本登山医学会が日山協の協力を得て申請する準備を整えているところ)。現在オーストリア、独、英、仏、伊、スペイン、スイスなどで13のコースが制定されており、3,500名の医師が受講中で英国では取得者が100名に達している。

- ・ 主としてアイスクライマーに対して薬やサプリメントの使用に関する指導をおこなっているセルビアのネナドからUIAAのアンチドーピング活動について説明があった。

以上が会議の概要であるが、次回は2010年8月にペルーのアレキパでISMMと合同で開催される予定である。

(文責 堀井昌子—医科学委員会常務理事)



## 積雪期レスキュー講習会(東部地区) 報告

### TOTO 助成を受け土合で開催

平成21年度積雪期レスキュー講習会が1月29日(金)~31日(日)群馬県の土合山の家で行われた。登山研修所の独立行政法人日本スポーツ振興センターへの移管に伴い今年度より従来登山研修所で実施していた一般社会人向けの講習会を吸収し、TOTOの助成を受け、3日間の日程で実施された。

雪質観察、ビーコン基本操作などのクラス1、事故発生から搬出までのレスキュー技術などのクラス2の2コース35名を募集したが、好評で申し込みをお断りし、今回は群馬県山岳連盟の協力も得て、受講者42名、講師・スタッフ16名で行われた。天候が心配されたが、好天に恵まれ冬山の厳しさを感じられないのが残念であったが講師と受講生は真剣に積雪期のレスキュー技術の習得・研鑽に取り組んだ。



真剣に捜索する受講生



ツエルトに包み掘り出す

従来はレスキュー技術中心であったが、事故予防という安全登山推進のため廣川常任委員編集のテキストも併用し、冬山のリスクを繰り返し強調する講習会となった。

クラス1は主任講師を渡邊常任委員が務め、講師に瀬藤、スタッフ下越田、近藤で受講者は18名であった。クラス2は町田常任委員が主任講師を務め、講師に大沼、スタッフ宮永、服巻、渡邊、中丸で受講者は24名であった。

今回は日本雪崩ネットワークのどがわさんと五月女さんに雪崩についての講義と実技指導をお願いした。お二人の講義はわかりやすく映像も多用し、講習生が息を呑むシーンもあった。雪崩については第一が雪崩、雪のクラック、ワッフ音などの直接証拠、



ピットやコンプレッションテストを行う

第二が雪質観察、テストなどの積雪情報、第三が気象情報である。また、テストについては手首で割れ

るか、腕全体で割れるかということより割れた断面がきれいかどうかの方が重要である。手首と腕の差は弱層までの伝播の差であるかも知れないので、深い方が伝播しにくく崩れにくいだが、崩れたら大きな雪崩になるし、弱層の上の積雪（スラブ）の厚さは場所により異なるからというように大変わかりやすい内容であった。

最後に閉講式が行われ各主任講師から講評があり、修了証が渡され終了したが、初めての3日間コースで時間配分や講義の順序に課題を残したが、群馬岳連の方のサポートもあり、土合山の家の食事大変おいしく、受講者からは大変有意義な3日間であるとの言葉も頂いた。（遭難対策委員長 西内 博）

## 第6回アイスクライミングジャパンカップ報告

第6回アイスクライミング・ジャパンカップは群馬県利根郡川場村桐の木平キャンプ場内に設置されたクライミングウォールで開催した。参加者は北海道、長野県、東京都、神奈川県、千葉県、愛知県、それに地元群馬県の選手総勢20名で行われた。

大会当日の川場村は、昭和59年の豪雪以来と言う大雪の中で競技が行われた。会場へ続く林道は前夜から降り続いた雪のため、夜を徹しての除雪作業を行ったが、降りしきる雪の多さにブルドーザーや除雪ローダーのエンジンが悲鳴を上げた。

競技開始の昼頃でも気温マイナス10度以下となり、午後3時過ぎには体感温度はマイナス20度以下で、ときおり突風が吹き、視界は5m程度になる事もある厳しい条件の中での競技会であった。

大会予定は初日の土曜日を予選、日曜日を決勝としていたが、予想以上の降雪で、日曜日は林道が通行不可となり、会場地に宿泊していた選手、役員は電話も通じない場所で孤立状態となった。



### 第6回アイスクライミングジャパンカップ成績表

審判長：赤松久宇（2010.2.11 修正版）

2010年2月6、7日群馬県川場村桐の木平キャンプ場にて

#### ■ルート競技予選

順位	選手名	●男子								合計
		A	B	C	D	E	F	G	H	
1	山岸 尚将	12	25	20	50	12	12	25	12	168
2	横沢 祐司	12	25	20	50	12	12	25	12	168
3	越友 宏	12	25	20		12	12	25	12	118
4	山田 高英	12	25	20		12	12		12	93
5	大前 義孝	12				12	12	25	12	73
6	清水 智	12		20		12	12		12	68
7	桜澤 齊	12				12	12		12	48
8	高野 友宏	12					12		12	36
9	大谷 薫								12	12
10	宮城 公博									0

順位	選手名	●女子								合計
		A	B	C	D	E	F	G	H	
1	大前 慈雨	33			100	25	25	100	25	308
2	石原 幸江	33		50		25	25		25	158
3	山岸 亮子	33		50		25	25		25	158
4	八木 名恵					25			25	50
5	松永夕花里					25				25
6	金子まじか									0
6	星野 緑									0
6	石渡 貴子									0

- ・男女同一8ルートで、各ルートを3回トライできるトップロープでのセッション方式とした。
- ・オブザーベーション後、F,G,Hのみのトライを希望する選手には、各ルート6回トライを可能とした。
- ・但し、F,G,H以外のルートのトライはできない。（希望者はいなかった。）
- ・ルート毎のポイントは、各ルートの最高到達ポイント到達者数で100ポイント割って得られた数字。但し、少数点以下を切り捨てた。（女子のB,C,Dルート以外は、全て完登者がでた。）
- ・合計ポイントが同一の場合は、最高到達点に達するのに要したトライ数が少ない選手を上位とした。

#### ■ルート競技決勝

- ・制限時間内であれば、フォールしてもスタート地点からリトライできるオンサイトリード方式とした。
- ・予選の結果で、男子は上位6人、女子は上位4人で決勝を行うこととしたが、連日の降雪により大会会場へのアクセスが困難となったため、競技は中止した。
- ・決勝を中止したため、ルート競技の順位は予選の順位とした。

#### ■スピード競技

男子		女子	
順位	選手名	順位	選手名
1	清水 智	1	山岸 亮子
2	横沢 祐司	2	石原 幸江
3	山岸 尚将	3	金子まじか

- ・2人ずつでのトーナメント方式とした。





日曜日の朝、選手を安全に下山させることを最優先として、決勝は行わない事を決定した。決勝で使う予定の氷の壁を使えなかった事が少し残念ではあったが、予選の順位を最終順位とした。

競技会場は高さ2m程度の水平ルーフと薄被り4mのドライ壁、垂直の6mのドライ壁、垂直6mの水壁が設置され、ドライ壁7課題、氷の壁3課題で構成されている。予選は全てドライ壁で行われた。

競技は男子、女子の категорияでトップロープのルート競技とスピード競技の2種目が行われた。今年のドライ壁は12mmの合板で作られたため、木杵から離れた所にアイゼンを蹴り込むと板全体がたわみ、衝撃が吸収され、うまく蹴り込めず苦勞していた。特に蹴り込みの弱い女子選手はかなり苦戦を強いられたようだ。

逆に男子選手の中には強く蹴り過ぎてアイゼンの前爪が板を貫き、ムーブの際アイゼンが抜けずに苦勞している選手も見受けられた。

I C C I C (国際競技アイスクライミング評議会) ルールではヒールポイントは使わない事になっているが、ルーフについてはローカルルールを適用し、ヒールは使っても良いとした。

競技は家族や友人の声援の中、スポーツクライミングのような厳格さはなく、アットホームな雰囲気



で行われた。声援の中には具体的なムーブやホールドの取り方なども含まれ、「そこまで言って良いの?」と疑問を感じる事もあった。まだまだ競技としては発展途上の感が否めない。

時折吹雪く強い風の中で、薄着の選手はもとよりビレイヤー、ジャッジは殆ど氷像状態での競技であった。厳しい自然条件の中で行うアイスクライミング競技は山岳競技であると言うことを思い知らされた。不謹慎ではあるが、私個人としては久々に味わう厳冬の雪山の喜びも感じた時間でもあった。

最後に、大会を主管した群馬県山岳連盟の方々やアイスエクストリームの本山様には寝る間も惜しみの除雪作業や寒さの中のビレイ、ジャッジ業務更にスタックした車の脱出など、本当にご苦勞様でした。あらためて感謝申し上げます。

(競技委員会担当常務理事 大会委員長 寺内 丈行)

## 寄贈図書

### ● 寄贈本 ●

長野県警察本部生活安全部  
地域課 50年のあゆみ  
岐阜県北アルプス山岳遭難  
対策協議会この岳に生きる

### ● 雑 誌 ●

東京新聞出版局岳人 2月号

山と溪谷社 山と溪谷 2月号

言葉ふる森  
FEECVe, 'rtex

中国登山協会 山野

### ● 会 報 ●

財健康体力づくり事業財団  
近畿山岳愛好会  
財日本万歩クラブ  
福岡山の会  
財全日本ボウリング協会  
日本山岳写真協会

大阪府立体育館

財日本ゲートボール連合

兵庫県山岳連盟

財日本スポーツ振興センター

財日本武術太極拳連盟

財富山コンベンションビューロー

財国立公園協会

横浜山岳会

財国土緑化推進機構

高校生新聞社

財日本山岳会

日本勤労者山岳連盟

財日本パワーリフティング協会

新潟県山岳協会

東京野歩路会

財日本山岳会

東京野歩路会

財日本山岳会自然保護委員会

愛知県山岳連盟

日本ヒマラヤ・アドベンチャー・

トラスト

# 第23回海外登山女性懇談会

## 谷口けい講演会「未知との遭遇に憧れて」



講演する谷口けいさん

第23回海外登山女性懇談会は、2009年12月7日(木)午後7時、国立オリンピック記念青少年総合センター「国際交流棟第一ミーティングルーム」にて92名の参加を頂き開催された。

女性初のピオレドール(黄金のピッケル)賞受賞者の谷口けいさんを日山協海外委員会では是非称えたいとの意見で、当会を【谷口けい講演会】とし、谷口さんからの要望で「未知との遭遇に憧れて」と題しお話を伺う事となった。

講演は、田中文男会長の挨拶の後定刻通り開始された。まず、ピオレドール賞受賞登攀となったカメット南東壁のビデオが流れ、登山が予定より長引き苦労された事など、映像と共に大変興味深い報告を聴けた。

ビデオ終了後、突然谷口さんから参加者に今年の自分自慢(この一年チャレンジした事、最もエネルギーを注いだ事など)参加者同士のフリートークの提案があり、参加者への質問の後、彼女自身が毎年年末に山に入り次への挑戦、来年への元気を確認する事などが語られた。



挨拶する田中文会長



登山中の谷口さん

その後、谷口けいさんの2009年1年間の活動、日山協から派遣されたインターナショナルクライミングミーティングへの参加、ピオレドール賞でのヨーロッパでの1週間、アラスカ、パキスタンでの行動、感じた事など次々語られ、再びビデオ映像となった。

チベット遠征の様子を記録した映像は、彼女の気合を入れたビデオの言葉通り登山経験のない人が見ても十分楽しめる構成及び内容で、あっという間の2時間であった。今回、参加の皆様には十分満足していただけたであろう事は、当日のアンケート回答で伺い知る事が出来た。また、出来ればもっと若い世代の人達にも是非聴いて欲しい内容であった。

多忙な中講師をお引き受けいただき、参加者全員に元気を下さった谷口さんの今後の益々の活躍に期待しつつご報告とさせていただきます。

尚、事前の問い合わせの多さに急遽会場をセンター棟403号室から広い国際交流等に変更したため、一部の参加者に御迷惑をおかけしました事紙面をお借りしてお詫びいたします。(海外委員 藤田 礼子)

アウトドアスポーツ用 GPSレシーバー **ATLAS® ASG-1** 販売価格 14,800円(税込)

**正確な位置情報があなたを助ける!**

- 現在地の緯度・経度情報を表示
- 移動中の速度・高度・距離を表示
- 自動ログ機能搭載

移動ルートをパソコンに表示した地図(Google Maps™)上で確認できる!

株式会社 コピテル 〒108-0023 東京都港区芝浦4-12-33  
TEL 03-3769-2525 FAX 03-3769-2520  
お問い合わせ先: アトラス事業部 山下まで

**ASG-1** : ブラック  
**ASG-1(P)** : ピンク

<https://atlas.yupiteru.co.jp>  
※ご購入は弊社ホームページからアトラスクラブに入会(無料)し、直接購入もできます。



## 第15回 Mountain World

### 南半球からとどいた二つの便り

池田常道

昨年12月22日から24日、チャド・ケロググ（米）が単独でアコンカグア(6962m)南壁に新ルートを拓いた。メディシン・ブツダ(VI, WI4 M4)と命名され、標高差3000mのうち1980mが新ルートという。

ケロググは高所順応を得るために北面通常ルートを登って17日に登頂。ところが、パートナーが高山病に倒れ、BCに収容されてからも回復しないためヘリで救助される羽目になった。単独登攀に切り替えたケロググが21日南面BCに入って壁を観察すると、低温が続いたせいで氷雪が十分に付き、クレバスも埋まるという絶好のコンディションだった。24時間で完登する計画で極力軽量化を図り、翌朝4時に出発した。8.1mmロープ1本、ストーブとガスカートリッジ1個、予備の衣類と二重靴。テントも寝袋も持たなかった。

二つの大きなクレバスとベルクシュルントを越えて初登ルート（1954年フランス隊）の左から取付き、水流が流れる出だしの氷壁を迂回。82年ユーゴスラヴィア・ルートとの間にある中央クーロワールへと下降して、すみやかに登った。ときおり頭上のセラックから雪崩があったが、無事に避けることができた。標高6000m地点でセラック下に達して上部懸垂氷河へと抜け出し、74年メスナーのダイレクト・ルートに合流した。ここまで標高差2000mを12時間半というハイペースで、ワンデイ・アッセントも視野に入ってきた。しかし、氷河上は砂糖のように頼りない雪におおわれて時間を食われたため夜11時、ワンデイは諦め、氷河まで戻ってビバークした。7時間寒さにふるえた翌日は午後早い時刻に頂上稜線まで400mに迫るが、上部の湿った雪で両手が濡れ、右の親指が凍傷になった。稜線に抜け出したのは夜の10時。42時間を壁のなかで過ごしたことになる。強風の下通常ルートを下り、翌日午前1時半、ニド・デ・コンドル（5300m）のレンジャー詰所で温かい飲み物にありついた。

ワンデイ・アッセントの夢を捨てきれないケロググは、29日に通常ルートから頂上を目指した。5950mのベルリンキャンプまで9時間15分で駆け

上ったものの、デポしておいた装備類が何者かに荒らされ、大事な高所靴まで盗まれているのを知って諦めた。

\*

イタリアのエーリオ・オルランディとファビオ・ジャコメッリ（51）が、昨年12月からセロ・トーレ(3102m)東壁の新ルートを攻撃、頂上まで200mを残して下降したが、1月1日、ジャコメッリが基部の氷河で雪崩のため死亡した。午後9時ごろ、ひと足先に懸垂下降を終えたジャコメッリが、炊事の支度をするため雪洞に戻る途中雪崩に襲われたもの。この時点でまだ壁の途中にいたオルランディは下りてきて異変に気づき、翌日からジャコメッリを捜索した。雪崩の恐怖におびえながら、クレバスのひとつひとつを3日間にわたって探しまわった末に遺体を発見した。その傍らで一夜を明かしたオルランディは翌日、エル・チャルテンまで下って救助隊を編成、現場に引き返して遺体を収容した。

この2人は前シーズンも東壁を試み、4分の3の高さまで達していた。今回はそこを越えて頂上に迫ったものの、悲劇に終わった。なお、2人は東壁を登るだけでなく、08年に亡くなったチェザリーノ・ファヴァの遺灰を頂上からまくことも予定していた。ファヴァはイタリアの大先達で、59年に行なわれた疑惑の初登頂に際してチェザーレ・マエストリのサポートを務めたクライマーである。そのとき、パートナーのトニー・エガーが東壁下部で雪崩に遭って亡くなったのも、なにか因縁めいた話である。



アコンカグア南壁、チャド・ケロググの新ルート





平成21年度1月(22年1月)度  
常務理事会議事録

日時 1月7日(水) 17:30～20:30  
場所 岸記念体育会館103会議室  
出席者 田中会長、内藤副会長、  
中島副会長、神崎副会長、本木  
副会長、仙石、西内、佐藤、高山、  
堀井、青木、相良、寺内、永井、  
長谷川、谷口各常務理事  
委任 尾形、北山常務理事  
(18名中15名出席)

1. 専門委員会動静

12月常務理事会以降  
(12月10日～1月6日)

〔報告〕

- (1)広報委員会 12月11日(金)  
出席者7名  
ア H Pリニューアルの予算縮減  
について  
イ 登山月報1月号の内容の検討  
(12頁)  
ウ 標章無償使用取扱規程について
- (2)普及委員会 12月11日(金)  
出席者7名  
ア ジュニア登山教室(立山)に  
ついて  
イ 中高年安全登山指導者講習会  
ないようについて  
ウ 全日本登山体育大会静岡大会  
の内容について
- (3)競技委員会 12月12日(土)  
出席者6名  
ア 審判・ルートセッター認定証  
発送準備
- (4)遭難対策委員会 12月16日(水)  
出席者6名  
ア 冬山レスキュー講習会について  
参加講師、スタッフの集合:土  
合山の家、1月29日8時30分  
全体スケジュールについて  
クラス別講習内容について  
受講者への申込み受理連絡につ  
いて
- (5)競技委員会 12月17日(木)  
出席者12名  
ア 臨時理事会報告(11/15)  
イ ボルダリング・ジャパンカッ

- プの結果報告(11/21～22、  
深谷クライミングヴィレッジ)
- ウ 12月常務理事会報告
- ・第6回アイスクライミング・  
ジャパンカップについて(原案  
通り承認)
- ・第6回山岳スキー競技大会につ  
いて(原案通り承認)
- ・山岳スキー競技の現状とISMF  
加盟問題について(加盟する方  
向で支払をしていくことで決定)
- ・ルートセッター派遣費用規定の  
進捗状況について
- 山岳競技規則集に追加する規定  
(案)の提示(概ね了承)
- ルートセッターの支払い区分一  
覧の提示(日山協からの支出を  
抑えるようにスポンサーの活用  
など今後も努力が必要)
- エ 第1回ブラインドクライミング  
世界選手権2010の開催について  
2010年12月4日～5日  
千葉県習志野市東部体育館
- オ 第6回アイスクライミング・  
ジャパンカップについて(担当:  
寺内常務理事)
- カ 第6回山岳スキー競技大会に  
ついて(担当:寺内常務理事)
- キ 山岳スキー競技の現状と  
ISMF加盟問題について(別添  
資料により説明)
- ク 後催県の準備状況について  
千葉県:印西市総合体育館の外  
装は終了。内装工事中。リード  
壁はほぼ完成。3月に体育館完  
成予定。4/18リード壁で?落  
としの予定。第1回基準会議(5  
/15～16)、第2回基準会議  
兼リハーサル大会(6/4～6)  
和歌山県:11/8に第一次正  
規視察終了。
- ケ 審議事項
- ①平成22年度競技委員会予算案  
の検討について
- ②国民体育大会山岳競技ルートセ  
ッター派遣規程(新規)について
- ③ブロック研修会後の競技運営  
員・C級クライミング審判員の  
認定登録方法について
- ④日山協ブロック別研修会で使用  
する資料の確認
- ⑤ブロック研修会講師の選出につ  
いて

2. その他の重要事項

(12月10日～1月6日)

〔報告〕

- (1)故若月東児常務理事葬儀・告別  
式 12月10日(木)  
於:鴨川市・鴨川第一法輪閣  
田中会長、内藤、本木副会長、  
長谷川常務理事ほか
- (2)平成21年度第2回全国スポーツ  
指導者連絡会 12月11日(金)  
於:岸記念体育会館  
鈴木(由) 常任委員
- (3)財団法人アンチ・ドーピング機構  
ヒアリング 12月11日(金)  
於:事務局  
JADA井上、中川事務局員
- (4)平成21年度日体協公認スポー  
ツ指導者表彰式 12月12日(土)  
於:グランドプリンスホテル赤  
坂 表彰者:菅野三知博、阿部  
信一、古島俊彦各氏
- (5)日本ヒマラヤ協会華甲望年会  
12月12日(土)  
於:主婦会館プラザエフ  
尾形常務理事
- (6)第23回海外女性懇談会  
12月17日(木)  
於:オリンピック青少年セン  
ター 田中会長、青木常務理事、  
各常任委員 参加者92名
- (7)平成21年第2回競技団体連絡会  
議兼競技者支援要員向けドーピ  
ング防止研修会  
12月18日(金) 於:ミズノ(株)  
大阪本社 西原常任委員
- (8)第11回尾瀬フォーラム  
12月18日(金)  
於:高崎シティギャラリー・コ  
アホール 長谷川常務理事、齊  
藤常任委員
- (9)田山勝元常務理事逝去(享年  
74歳) 12月18日(金)
- (10)会長・副会長選考委員会  
12月19日(土)  
於:日本青年館  
選考委員12名
- (11)故田山勝元常務理事通夜  
12月25日(金)  
於:鴻巣市・県央みずほ斎場  
田中会長、尾形常務理事
- (12)仕事納め 12月25日(金)
- (13)故田山勝元常務理事葬儀・告別  
式 12月26日(土)

# あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

自分だけは安全、と思いがちですが、  
年間遭難者数は約2,000人です。

## ■平成20年 山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成21年7月3日)

発生件数 **1,631** 件

遭難者数 **1,933** 人

死者・行方不明者 **281** 人

詳しくは → [www.jma-sangaku.org](http://www.jma-sangaku.org)

お問い合わせは

**日本山岳協会 山岳共済会**

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター  
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707  
TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397  
E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp



於：鴻巣市・県央みずほ斎場  
田中会長

(14)第49回全日本登山体育大会打ち合わせ 12月26日(土)

於：静岡市 静岡岳連・滝田会長、木ノ内理事長、内藤副会長、仙石常務理事

(15)仕事始め 1月5日(火)

### 3. 議事

(1)平成21年12月常務理事会議事録の承認について（提案通り承認）

(2)中期計画タイムスケジュール表について

（新公益法人25年12月スタートの日程承認。改めて評議委員会で日程のキックオフを確認する）

(3)創立50周年記念事業の担当について

（日程・要項の未定事業も有るが、提案事業等を了承。至急整備して周知する）

(4)その他

(5)報告事項

ア 新春懇談会について

イ 第2回ウインタークライマーズミーティング2010について

ウ 第48回海外登山技術研究会について

エ UIAAアイスクライミング選手権への選手派遣について

オ 平成21年度評議委員会の開催（案）について

カ 故田山勝元常務理事の特別表彰推薦について

キ 「トムラウシ遭難事故を考える」シンポジウムの開催について

ク 平成21年度富士山測候所利活用に関する成果報告会の開催について

### 4. 役員等の派遣について

(1)平成21年度日山協競技委員会ブロック研修会

四国（愛媛）：

1月23日(土)～24日(日)

滝内、安形常任委員

関東（群馬）：

1月30日(土)～31日(日)

高山常務理事、山本常任委員

近畿（京都）：

2月6日(土)～7日(日)

森（庄）、原常任委員  
東海（岐阜）：

2月6日(土)～7日(日)

西原、山本常任委員

中国（鳥取）：

2月6日(土)～7日(日)

松田、安形常任委員

北海道（深川）：

2月20日(土)～21日(日)

松田、安形常任委員

北信越（富山）：

2月20日(土)～21日(日)

森（庄）常任委員

九州（鹿児島）：

3月6日(土)～7日(日)

高山常務理事

(2)自然公園指導員懇談会

1月8日(金)

於：（財）国立公園協会

松隈常任委員

(3)平成21年度アスレティックト

レーナー連絡会議

1月10日(日)

於：岸記念体育会館地下3階講

堂 中川事務局員

(4)JOCランク改訂説明会

1月15日(金)

於：岸記念体育会館 尾形常務

理事、中川事務局員

(5)平成21年度第3回競技団体連絡

会議兼競技者支援要員向けドー

ピング研修会

1月15日(金) 於：味の素ナショ

ナルトレーニングセンター 中

川事務局員

(6)宮城県山岳連盟創立60周年記

念祝賀会 1月16日(土)

於：仙台市・ホテル白萩

中島副会長

(7)第59回日本スポーツ賞表彰式

1月21日(木)

於：ホテルニューオータニ

青木、尾形常務理事

(8)アジアユースシリーズ香港大会

1月22日(金)～24日(日)

於：香港 篠崎監督・スタッ

フ3名、選手12名

(9)第6回JISSスポーツ科学会議

1月23日(土)

於：国立スポーツ科学センター

中川事務局員

(10)平成22年度中高年安全登山指

導者講習会連絡会議

1月25日(月)

於：岸記念体育会館 103号室  
内藤副会長、西内、仙石、尾  
形常務理事

(11)平成21年度雪崩防災シンポジ  
ウム 1月28日(木)～29日(金)

於：日光市藤原総合文化会館  
（派遣なし）

(12)生涯スポーツ全国会議2010

2月4日(土)

於：さいたま市 中川事務局員

(13)第6回アイスクライミング・ジャ  
パンカップ 2月6日(土)～7日(日)

於：群馬県川場村

寺内、高山常務理事

(14)第48回海外登山技術研究会

2月10日(木)～11日(木)

於：オリンピック青少年セン

ター 田中会長、青木常務理事

(15)IFSC総会 2月27日(土)

於：インドネシア・バリ

北山常務理事、小日向常任委員

(16)「トムラウシ遭難事故を考える」

シンポジウム 2月27日(土)

於：神戸市・王子動物園ホール

内藤副会長、西内常務理事

### 5. 後援、協賛等の依頼について

平成21年度雪崩防災シンポジ  
ウムの名義後援（提案通り承認）

（1/28～29、栃木県日光市）  
第10回全日本山岳スキー競

技大会兼第30回秋田県山岳ス  
キー競技大会の名義後援

（2/20～21、秋田駒ヶ岳）

（提案通り承認）

国際山岳認定医制度発足に伴う

協力依頼について

（日本登山医学会）（提案通り承認）

#### 登山月報 第491号

定価 100円（送料別）

予約年間1、200円送料共

昭和45年12月12日

第三種郵便物認可

（毎月1回15日発行）

発行日 平成22年2月15日

発行者 東京都渋谷区神南1の1の1

岸記念体育会館内

社団法人日本山岳協会

電話 03-3481-2396

FAX 03-3481-2395





# 50周年記念行事一覧

開催日	記念事業	会場	主催
4/14(水) ～5/2(日)	<b>記念登山「バルドール・ピーク(5,896m)」</b> ネパール・ヒマラヤの中央部、ガネッシュ山群のガネッシュ・ヒマールⅡ峰から南東に延びる稜線上の雪峰を目指します。 19日間、募集定員20名、隊長他1名を日山協から派遣	ネパール・ヒマラヤ	UAA A合同遠征に参加 日山協
4/24(土)	<b>海外登山隊「クロニクル・トークショー」</b> — The EVEREST DAY — エベレスト登頂者：松浦輝夫・田部井淳子・渡邊玉枝(以上予定)のトークショー、ビデオ上映、ディスカッション	東京都 国立利ビック青少年センター	JAC・毎日新聞との共催
5/29(土) ～6/6(日)	<b>「UIAA登山委員、スティーブ・ロング氏講演会」</b> 英国登山リーダー教育機関の代表で、UIAA登山委員会の登山指導の標準化グループの代表を兼ねている講師を招請	東京(5/30)・札幌(6/1)・大阪(6/5)	労山との共催
7月～11月	<b>「安全登山の講演と映画」</b> 安全登山の啓発と遭難防止を呼びかける映画と講演会を全国2会場で開催。基調講演は著名な登山家をお願いし、貴重な映像で遭難防止を訴える。	東部地区： 西部地区：	日山協 共済会
7/24(土)	<b>世界初5大陸最高峰登頂成功(8/26)記念フォーラム</b> — The UEMURA NAOMI DAY — あの人は風でした—植村直己さんを語る— 「冒険の世紀」—受け継がれる挑戦の系譜—	東京都 如水会館(予定)	JAC・毎日新聞との共催
8/9(月) ～12(木)	<b>みんな集まれ！ジュニア登山教室in立山</b> 募集人員60名、遊び・工作・見学と立山登山・クライミング体験等スペシャルゲストも参加予定	富山県 国立立山少年自然の家	日山協 国立登山研究所との共催
9/11(土)	<b>海外登山隊「クロニクル・トークショー」</b> — The EXPEDITION DAY — 昨今の精鋭的・卓越的な登山隊のトークショー、4～5隊参加	東京都 国立利ビック青少年センター	JACとの共催
10/18(月) ～11/8(月)	<b>記念トレッキング「クーンブ三大峰越え」</b> ヒマラヤの神髄を堪能するクーンブ山群でコンマ・ラ、チョラ・ラ、レンジョ・パスの開嶺を越えながらマウンテン・ワールドの眺望を満喫	ネパール・ヒマラヤ	日山協
10/22(金) ～24(日)	<b>全日本登山体育大会(49回静岡大会)</b> コンセプトは自然保護 「南アルプスや富士山の自然」についての講演等	静岡県 静岡市・富士市・富士宮市 御殿場市	日山協
12/5(日)	<b>海外登山隊「クロニクル・トークショー」</b> — The HIMALAYA DAY — 冬期サガルマータ南西壁隊等のトークショー データから見たヒマラヤ登山隊など	東京都 国立利ビック青少年センター(予定)	JACとの共催
12/4(土) ～5(日)	<b>第1回ブラインドクライミング世界選手権2010</b> 視力障害者のクライミング大会、 エリック・ヴァイスマイヤー講演会(エベレストサミッター)(予定)	千葉県 習志野市東部体育館	日山協
12/25(土) ～26(日)	<b>第1回高校生クライミング全国大会</b> 全国高校生のクライミング(男女リード)大会 (学校団体戦、個人戦)	埼玉県 加須市民体育館	日山協 高体連登山部
1/13(木) ～16(日)	<b>国際山岳自然環境会議 東京2011</b> 記念式典に合わせて開催、温暖化による様々な山岳自然環境や青少年環境教育のあり方などについてのシンポジウム	未定	HAT-Jとの共催
1/15(土)	<b>記念講演会・式典・祝賀会</b> 午前中に記念講演会。記念式典では功労者表彰。 祝賀会はビッフェ・スタイル・パーティ	東京都 如水会館	日山協
1/16(日)	<b>海外登山隊「クロニクル・トークショー」</b> — The DOCUMENT DAY — マナスルに立つ、ナンダ・コット初登頂、白き氷河の果てに、などの名作映画会	東京都 国立利ビック青少年センター(予定) (他に全国2会場を予定)	JACとの共催
	<b>50年記念誌作成</b>		
	<b>国体山岳競技史作成</b>		
	<b>記念グッズ販売</b> Tシャツ、パルスオキシメーターの記念品販売		
	<b>ロゴマーク・リーフレット作成</b> ロゴマーク・ピンバッジ、リーフレットを作成配布		